

おおめ

大目ふみお



若さと情熱、そして行動力



はじめに

皆さんこんにちは。開田高原の大目富美雄と申します。
(おおめふみお)

以前、『木曾福島公民館だより』にも書きましたが、開田には末川地区に3軒大目という名字があり、偶然にも3人とも名前が同じ「ふみお」です。漢字は、富美雄、文男、文雄とそれぞれ異なります。したがって住所が番地まできちんと入っていなかったり、漢字を間違えて「文夫」などと書かれたりしていると、郵便屋さんはどこへ配ったらいいのか迷ってしまうことになります。

さて、私の生い立ちを少し話させていただきます。

私は昭和31年9月26日に旧開田村末川鬚沢（和和パンから右に入っていく集落）に生まれました。兄弟はおらず一人っ子です。父親は大工をしており冬期間は酷寒の開田では仕事がないため、伊那へ住み込みで出稼ぎに行っていました。

父が事故で世界

父は、私が小学校へ入学する昭和38年の1月、高遠でバイクに乗っていて凍結した路面でスリップ事故を起こし亡くなってしまいました。この年は非常に豪雪の年で、まだトンネルも開いておらず、農協のトラックに乗せてもらい、母と二人地蔵峠を越え塩尻経由で伊那へ向かったことを覚えています。出稼ぎが多かったため、父との思い出は余りありませんが事故の後、頭に包帯をまいて横たわっていた姿だけは今でも鮮明に覚えています。

高校時代は陸上部

そのあと私は、小学校、中学校と地元の学校へ通いました。体の弱い母親は祖父母の面倒を見ながら働いてくれました。私は中学卒業後、高校進学を諦めて家のために働こうと考えましたが、奨学金を借りたり新聞配達をしたりしながら高校へ通いました。

木曾西高時代、私は陸上部で長距離をやっていました。週末に家へ帰るときには、バス代の節約と練習を兼ねて20km余りの峠道をいつも走って帰っていました。そんな練習の成果が実って恒例の強歩大会（開田コース43km）では3年連続優勝することができました。また、陸上の成績は県大会で、1,500mと5,000mで共に2位に入賞することができました。



S46年、中学陸上中信大会
2千Mで3位入賞（右端）

公務員生活スタート

昭和50年3月、高校を卒業。友人らの多くは大学に進む中、私は病弱の母を助けるため、地元に残ることを決意し開田村役場へ就職しました。

以後、役場職員として税務、会計、年金、戸籍、観光、消防、企画、財政など多くの部署で仕事をさせていただきました。また、平成17年11月町村合併の後には、本庁勤務になり保健福祉、企画調整、教育委員会、議会などの仕事をさせていただきました。特に教育委員会では上田小学校の統合問題で保護者の皆さんや地域の皆様が大変お世話になりました。また、最後の1年間は木曾福島公民館長として若菜学級や木曾学講座、子どもいきいきクラブをはじめ木曾福島地域協議会（ひとづくり部会）などで本当に多くの皆様にお世話になり、貴重な経験をさせていただきました。改めてこの場を借りてお礼申し上げます。



福島中畑地区のどんと焼き

地域の活性化

このように長きにわたり公務員生活を送りながら、常に自分の頭の中にあったことは地域の活性化をどうするか、過疎問題をどう解決するのか、ということでした。住民がふるさとに誇りと生きがいを持って楽しく暮らしていくためにはどうすればいいのか、ということでした。そのために本を読んだり、機会を見ては首都圏で行われる研修会などに参加したりして自分なりに勉強しました。しかし、それだけではどうしても時間的にも内容的にも物足りなさが残り、本質をしっかりと学ぶための限界を感じました。

信大大学院で研究

そんなときです、信州大学で社会人大学院の募集があることを知りました。ちょうど3人の子どもたちも就職や進学で家を離れ、自分も消防団副団長や小学校PTA会長、公民館分館長などの役職を全て終えていました。

そこで受験資格審査を経て試験に臨み運良く合格。平成17年4月から2年間、好きだったゴルフや旅行、飲み会も断り多い時には週3回、松本の

信大キャンパスへ通い続けました。授業は夜6時半から10時近くまで行われたため、遅い夕食を塩尻で済ませ帰宅すると零時を過ぎることもしばしばでした。

大学院では先生の指導もあり「Iターン者と地域の活性化」について研究し、地域づくりの基礎をさまざまな面から学ばせていただきました。また、多くの向学心に燃えた仲間や経済学部の先生方とも楽しくお付き合いさせていただき、今でも信州地域社会フォーラムなどを通じて交流を深めています。これら信大大学院で学び得たことをぜひ地域へフィードバックして一緒にまちづくりを行っていきたいと考えています。



小宮山淳学長より学位記を授与される

福祉のまちづくり

前置きが大変長くなってしまいましたが、私が目指す地域像は、小さな子どもたちやお年寄り、女性や障害をお持ちの方などが安心して楽しく暮らせる福祉の充実した地域です。こういういわゆる生活弱者と言われている方々が安心して暮らせる地域というのは、健常者はもちろんのこと、観光客や仕事などで町を訪れてくれる人々にとってもきっと過ごしやすい快適な地域であるに違いないと思うからです。子育て支援や障害者の雇用促進、公共施設のバリアフリー化なども大変重要です。

私の好きな詩を紹介します。

わたしと小鳥と鈴と
わたしが両手を広げても
お空をちっとも飛べないが
飛べる小鳥はわたしのよう
地べたを早くは走れない
わたしが体をゆすっても
きれいな音は出ないけれど
あの鳴る鈴はわたしのよう
たくさんな歌は知らないよ
鈴と小鳥と それからわたし
みんな違って みんないい
(『金子みすず 詩集』より)

持ち味を生かす

このように人それぞれお互いに相手を認め合う、尊重するということが大切だと思います。これは地域社会についても同じことが言えると思います。グローバル化する世界は、市場経済主義が幅を利かせ、経済優先、効率一辺倒で日本中が同じような町になり地域の個性が失われつつあります。都市でも田舎でも同じようなチェーン店があり同じようなものを食べ、地域の個性が感じられなくなっています。木曾は木曾らしく、木曾町は木曾町らしくその地域資源や持ち味を大いに生かした取り組みが特に求められます。

国や県の補助金を活用することはとても大切なことですが、これらの金とて貴重な国民の血税です。「補助金だから、町の持ち出しがないから・・・」ということではなく、もっと成果が上がるよう効果的に使わなければいけないと考えています。



ほお葉巻きを作るお年寄り
(みたけグルメ工房)



大目富美雄君の決断に拍手！

後援会長 下岡 守男

財政が厳しくなり打開するために4町村が合併して木曾町が誕生しました。3回目の町長選挙に立候補の決意を固めた大目富美雄君の決断に拍手を贈ります。

旧4町村は祖先からの遺産を大切に地域の特性を活かしながら一つにまとまることで更に発展することを目指してきました。しかし、毎日の生活を通じ、希望の持てる活力あふれる町に生まれ変わったとは思えません。多くの課題がありますが古い枠組みを超えた住民の理解と協力が不可欠だと思われま

高齡化と共に後継者の職場難からさらに過疎化が進み、医療や福祉に大きな陰を落としています。これらは全国的な問題でもあり解決は容易ではありませんが、真剣に取り組まなければいけない重要な問題です。

また、財政問題は自治体が抱える大きな課題です。年ごとに増える財政支出は自主財源の乏しい自治体の力だけでは解決は困難です。住民とのコンセンサスをしっかり得ながら国の補助制度などを取り入れ、いつでも住民が気軽に相談に訪れられるような、風通しのよい明るい町づくりに取り組まれるようご健闘を祈ります。

地域力のアップ

福祉の充実を図るためには地域力をアップしなければなりません。地域の経済力を高め、お金がもっと地域で循環する流れを作する必要があります。

木曾町にとって観光は大きな産業の柱です。新たな産業の育成や商工業の振興、企業誘致も重要です。農業や林業、畜産など第一次産業を基盤にした他産業の振興がとても大切だと考えます。私は西高（旧木曾西高校）ですが、森林・林業の重要性は十分認識しているつもりです。現在も開田森林のクラブなど木曾地域の林業グループにも所属し活動しています。

少子高齡化が進み日本全体の経済が縮小していく中で、これをやれば問題が解決するということは難しいことかもしれません。ただ、いくつかの取り組みを複合的に行うことによって一定の成果が上がってくることは大いに期待できるものと思います。



障害木の伐採作業

交流人口の拡大

私はお陰様で全国各地に大勢のまちづくりの仲間がいます。そういうネットワークを大いに生かしながら全国から人を呼び込み、交流人口の拡大を図ることによって地域の活性化を促進したいと考えています。

こういう事業を進めていく上では従来のように役場が主導的に行うのではなく、もっともっと町民の皆さんと共に一緒になって取り組んでいくことがとても重要なことだと思います。

毎年冬に行われている「雪灯りの散歩路」などは住民主体の本当に素晴らしいイベントだと感じています。



「雪灯りの散歩路」メイン会場

町政に新風を

木曾町が誕生してから11月で丸8年になります。合併の賛否についてもいろいろな意見がありますが、現実問題として合併をしたわけですから、みんなで力を合わせて「合併して良かった」という方向へ持っていかなければなりません。

少子高齡化や過疎化が進み、地域の活力が失われていく寂しさを感じているのは私一人だけではないと思います。

今ほど町政に新しい風が求められているときはありません。若さと情熱、そして行動力で精一杯頑張りますので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

私たちも応援しています

門 操工男優彦雄男明雄之敏章彦男満子子子美
 右 敬 輝邦信文和隆保隆浩春一 礼和洋清
 樹 吉 村 本瀬梶目島戸島野村條田 屋 尾沢條ノ上
 青 山 下 吉 岩 古 上 大 中 下 中 永 中 下 野 田 西 寺 上 田

障害乗り越えた
「千手観音」に感動

大目 富美雄 52

先日、県伊那文化会館で中国障害者芸術団の公演「千手観音」があった。聴覚や視覚などに障害がある若者たちが、さまざまな歌や踊りを繰り広げた。中でも、「千手観音」は目を見張るものがあった。聴覚障害がある十代から三十代の若い男女二十一人が、一糸乱れぬ手の動きで「千手観音」を舞ったのだが、音の聞こえない彼女らは、呼吸や流れる空気、吹き掛けられる息で前の人に手を動かすことを伝え、太鼓の振動を感じて踊るのだ

障害者の広場



佐野文子さん (松本市)

という。健常者でもとてもまねる事ができないほど繊細で優雅、しかも非常に質の高い踊りであった。耳の聞こえない彼女らが、あれほどまでに高いレベルの踊りを習得するまでには、私たちの想像をはるかに超える大変な苦労があったものと思われる。なぜあれほどまでに美しく舞い踊ることができるのだろうか。舞踊が終わった後、私は彼女たちには聞かぬこと承知で、美しさだけでなく、慈悲の心を見たのは私だけではないと思う。 (木曾町、役場職員)

<20.10.12 中日新聞>

大目ふみお プロフィール

昭和 31 年 9 月 26 日生まれ 56 歳 (H25.9.1 現在)

学 歴

長野県立木曾西 (現木曾青峰) 高等学校卒業
 信州大学大学院 (経済・社会政策科学研究科) 修了

職 歴

H18 木曾町企画調整課課長補佐
 H20 木曾町教育委員会次長補佐
 H24 木曾町教育委員会参事兼木曾福島公民館長
 H25 木曾町議会事務局長

役 歴

木曾郡小中学校 PTA 副会長
 開田小学校 PTA 会長
 開田村消防団副団長

加盟団体など

長野県自治研究センター (理事)
 信州地域社会フォーラム (会員)
 木曾交流創造塾 (世話人)
 地域づくり情報誌『かがり火』 (支局長)
 NHK ふるさと通信員
 木曾学研究所 (会員)
 千村士乃武作品保存会 (会員)

著 書

『とにかくチャレンジ』
 『私のスクラップブック①～②』
 『あの農産物直売所は、なぜ元気なのか?』

論 文

『I ターン者と地域活性化についての一考察』
 (信大大学院)

大目ふみお後援会事務所

後援会長 下岡守男

〒397-0001

長野県木曾郡木曾町福島 5115 番地 1

電話 0264-24-3086 24-3088

FAX 0264-24-3090 携帯 090-2526-7156

E-mail: info@ome-fumio.com

http://ome-fumio.com/